

課題解決に主体的に取り組む児童の育成～中学校区での連携を通して～

岩手県遠野市立土淵小学校
教諭 栗澤由紀

1 主題設定の理由

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化中、児童には、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が求められている。しかし、国内外の学力調査の結果などから、思考力・判断力・表現力等に課題が見られることが明らかになった。このことから、岩手県では、平成27年12月、岩手県教育委員会より「いわての授業づくり3つの視点」が示された。これを受け、遠野市では中学校区毎に研究の視点を設け推進している。今年度で7年目の取組である。

本校の児童は明るく素直であり、与えられた課題に対して真剣に取り組もうとする真面目な様子が見られる。過去3年間の研究の成果から、学習内容を習得しようと、授業と連動した家庭学習を通して粘り強く取り組む姿勢の向上が見られている。しかし、昨年度行った意識調査の結果から、学習に向かう意識の変容や、表現するための手段を身に付け始めたという自覚はうかがえるものの、児童全員が学習内容を理解するために「分かる、分からない」を明確にし、主体的に学習しているとは言い難い。低学年からのこのような学習に対する姿勢の低さが積み重なり、個人差が大きい、個別に見ても大きな伸びが見られないということも実態である。

2 具体的実践内容

本校は、3年前から「課題解決に主体的に取り組む児童の育成」の研究主題のもと、算数科を中心にして研究実践を重ねてきた。今年度は、「主体的」に加えて「できた・分かった喜びを感じる」も追求しているところである。この研究主題は、本校所属の中学校区だけでなく遠野市全体の学びの基本方針を具現化するものである。主体的な学習態度を育成するためには、児童、教師双方の意識改革が必要である。本校の児童は学習に対して受動的な児童が多いため、目標とする学び方をイメージ化させることも含め、以下のような手立てを講じ、実践を積み重ねた。

(1) 中学校区ごとに連携した取組

① 授業改善に向けた2つの視点の設定

本校が所属する遠野市立遠野東中学校区では、義務教育9年間で踏まえた指導の充実を図るために、視点①「意欲を高める学習課題の設定」視点②「言葉をつなぐ全員参加型の言語活動」の2点を設定し、小学校3校中学校1校の計4校で授業実践を重ねている。これは、児童による意識調査や各種調査結果等から研究主任を中心として課題点を洗い出し、本学区に必要な力を集約したものである。毎年、方向性を確認しながら、より具体的な授業改善の方法を探求している。各学校では、この視点をさらに具体化し、同じ方向性で指導することにより、学力向上を目指している。

② 授業の質的向上を目指す授業交流会の実施



上記の視点を意識した日常実践について、その妥当性を検討したり、改善点を見いだしたりするために、年に2回の授業交流会を行っている。各校では、指導案に視点に係る具体的指導内容を明記し、小中学校の教員による研究会を行う。授業交流会を行うことにより、小学校の教員は、中学校への進学後、より主体的な学習ができるような指導方法の見直しをすることができている。また、中学校の教員は、小学校で積み上げてきた

上記の視点を意識した日常実践について、その妥当性を検討したり、改善点を見いだしたりするために、年に2回の授業交流会を行っている。各校では、指導案に視点に係る具体的指導内容を明記し、小中学校の教員による研究会を行う。授業交流会を行うことにより、小学校の教員は、中学校への進学後、より主体的な学習ができるような指導方法の見直しをすることができている。また、中学校の教員は、小学校で積み上げてきた

【授業交流会の様子】



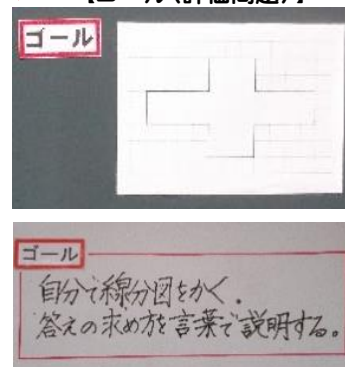
学び合いのレベルや学習規律等を再確認し、授業改善につなげるという相乗効果が確認されている。

また、遠野市では、毎年1回、市全体の研究発表会を行っている。この発表は、中学校区ごとの実践が紹介される。この発表により、各学校、中学校区、そして遠野市全体で1つの目標に向かう教員全員の意識向上が図られている。

(2) 教師のコーディネートの工夫

① 課題解決の意欲を保障する導入の工夫（中学校区視点①と連動）

本校では、毎時間の導入時に本時のゴール（評価問題）を提示する。提示するゴールは、具体的な問題だけでなく「解決方法を言葉で説明する」「正しく数直線図に表す」など論理的思考を評価できる問題も与えている。これは、単位時間内の振り返りでは、「分かった」と記述しても各種検査等の質問紙になると、積極的肯定の回答が少ないという実態から、児童が「何ができるようになれば、分かったと言えるのか」というゴール像が理解できないことに原因があるのではないかと分析したことによる実践である。



また、1つの単元学習後には、岩手県や全国の学習定着度調査で出題された関連問題に取り組んでいる。これにより学習内容を活用する力の育成につながっている。

② 主体的な学びを展開させる学習形態の設定や意図的指名（中学校区視点②と連動）

学習内容に合った学び合いのスタイルを教師が意図的にコーディネートし、設定している。

【多様な学び合いの場の工夫 例】

自力解決→一斉	自力解決を一斉で学び、課題を解決する。
ペア→一斉	はじめから2人組で考える。思考過程も説明し、一斉で学ぶ。
2人→4人→2人→1人	人数を増やして思考を深め、最後は個に戻ることで理解を確実に。
個人→ペア・グループ→一斉	自分の考えを一回は説明できる安心感。
個人→フリー→一斉	自分が説明を聞きたい人のところに集まり、思考を整理する。
個人→ジグソー学習	自分で導き出した考えをパーツごとに分かれて説明する。
分かる人グループ 分からない人グループ	学習内容の理解度に応じた小集団を作る。理解したグループはどんどん進める。理解が難しいグループは教師と学ぶ。
分かる人+分からない人	理解できなかった人は、十分に理解できている人に聞きに行く。

また、授業には「学び合い構造図」（資料参照）を作成してから臨む。学び合い構造図とは、児童の思考を予想し、取り上げたい考えをまとめたものである。この学び合い構想図を作成することで学び合いの形態を決定したり、意図的に指名の順序を決めたりすることができる。教材解釈、教材分析を綿密に行わなければ構想図にまとめることができないため、教師にとっても授業を構築する一助となっている。

③ 能動的な学習を促す日常実践

教師はファシリテーターでなければならぬが、どうしても話量が多くなってしまいうような反省が多く見られた。そのことから、単位時間内における「教師が使いたい言葉」を提示し共通理解のもと授業を展開してきた。教師の発問の仕方次第で学びの深さが決まってくる。

これまで、児童の不完全な考えを教師が説

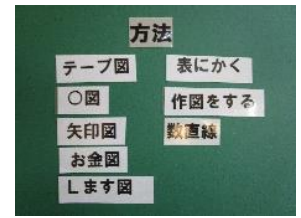
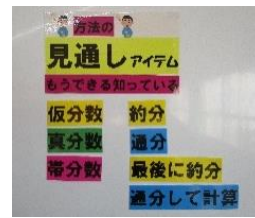
教師が授業で使いたい言葉	
授業の前半	
1	（問題を提示して）どんな気付きがありますか？
2	どうすれば解決できそうですか？
3	この見通しから課題を立てましょう。
学び合い	
1	〇〇さんの考えの続きを言える人はいますか？
2	〇〇さんの考えをもっとくわしく説明してください。
3	この考えを図で説明できる人はいますか？
4	もっと簡単な方法はありませんか？
5	出された考えを比べて気付きがありませんか？
6	なぜこの間違いをしたのか説明できますか？
7	数字を変えて説明できる人はいますか？
8	学び合ったことからまとめをつくりましょう。

【教師が使いたい言葉】

明していたが、不完全回答を完全回答にしていく過程を児童に任せることにより、児童が自
分事として思考する姿が見られるようになっていく。

【算数アイテム(見通しアイテム・方法)】

また、能動的な学習態度を育成するために、「算
数アイテム」を常時準備している。これは単元導
入前に教材分析を行い、学び合いの中で「児童に
注目させたい、使わせたい」と考える算数用語や
既習事項を洗い出したものである。学び合いの場
面において児童が「算数アイテム」を活用して全
体に説明する。既習事項と関連させながら自分の考えを詳しく説明することが可能になり、
学び合いの活発化につながっている。



(3) 児童の意識改革を目指した工夫

① 教師の実演による学び合いのイメージ化

児童に「目指す学び合いの姿」を明確にイメージ
させるために、教師による学び合い実演を行って
いる。この実演では「確実な考えを持っている児童」
「途中までなら分かった児童」「別の考えを持って
いる児童」「自分の考えを持つことができない児童」
など、実際の児童の姿の設定し、教師が児童役とし
て全校の前で授業を行う。



【教師実演による「学び合い」】

実演の後は、振り返りを行い、自分たちの学び合いの様子と比較して気付い
たことを話す。これまで、一人が考えを発言すれば完結したと思っていた児童も「考えが同
じでも自分の言葉で説明する」「途中までしか分からなくても発表してよい」「分からなけれ
ば分かるまで質問してもよい」「分からないことを分からないと話してもよい」というイメ
ージを持つことにつながっている。

② スキルアップカードによるメタ認知の向上

上記の実演を見ることでイメージできた学び合いの姿
に近づくために、「学び合いで使わせたい言葉」を提示して
いる。児童はこれらの話し方を用いて自分の意思を表現す
ることができる。児童は学び合いについての自己評価を定
期的に行う。研究が進むにつれて、これらの話し方を応用
し、自分の言葉で学び合いに参加するようになっていく。

【スキルアップカード】

分かったとき	
1	気付きを言います。
2	前に出て説明します。
3	まず～ つぎ～ だから～
4	ここまで分かりますか
5	例えば～
6	今日の課題は～にしてみんなで考えませんか？
7	今日のまとめは～はどうですか？
分からなかったとき	
1	～のところが分からないので、もう一度説明をおねがいします。
2	もう少し詳しくおねがいします。
みんなで学び合うとき	
1	～さんと似ている…違っている…
2	みんなの考えで共通していることは…
3	～さんと～さんの考えでちがうところは…
4	この中ではやく簡単に) 正確に) 解ることができるのは…

③ 児童全員が学び合いに参加できるハンドサインの活用

本校のハンドサインは、5種類である。これはすべての児童が理解できるように学び合
いを行うための仕掛けである。「分からない」「途中まで」の児童も自分の意思表示をすること
により、全員参加の学習になっていく。

まず「分からない」のサインを出した児童にまず指名する。児童は「ど
の部分が分からないのか」を話し、その発言から「詳しく説明します」
「図を描いて説明します」など他の児童が自分のできることを話して
挙手していく。高学年になると児童が自ら指名し、その発言がなが
って解決していく。教師は、先に述べた学び合い構想図をもとにして
意図的な指名を行うこともある。

【ハンドサイン】



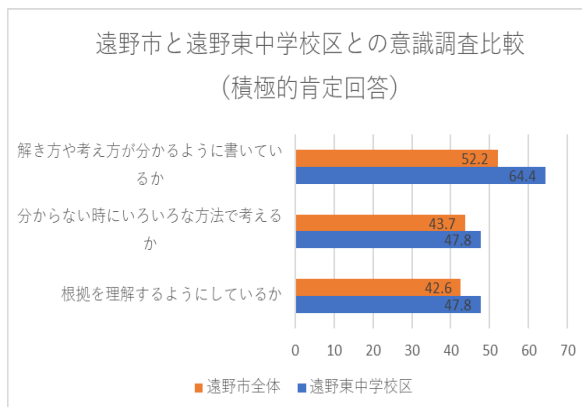
学び合いが上達した高学年では、はじめに「分からない」と発言した児童に対して「どの
くらい理解できたか」と投げかけたり、「図に描いたけれど詳しく説明できないので、付け足
してください」と児童間で深め合ったりするなど主体的に学び合いを行う姿が見られている。

3 研究の成果

(1) 中学校区全体として

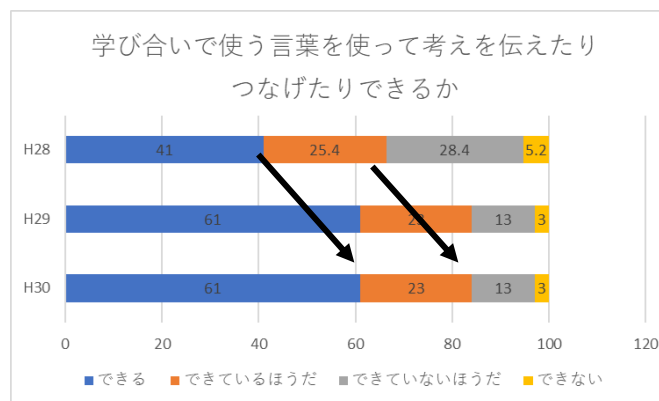
2つの視点に基づき実践を積み重ねたことや授業研究会を継続的に行ってきたことで、本学区の教員が同じ方向性で授業を構成することができている。国語科では、単元の学習計画を児童とともに作り、学習意欲を継続させるための実践や、英語科では、単位時間のゴールを映像として視聴させ、学びの見通しを持たせる工夫など、視点①「意欲を高める学習課題の設定」を具現化することができた。また、自分ではなく友達のことを説明したり、ペア学習から全体への発展を工夫したりと視点②「言葉をつなぐ全員参加型の言語活動」の多様な提案もなされ、学区が一丸となって授業の質の向上に向けて取り組むことができた。

遠野市で実施した児童の意識調査にも、2つの視点に基づいた取組が効果的であったことが表れている。



(2) 児童の変容

本校の児童の意識調査から、スキルを向上させながら主体的に学習しようとする変容していることが分かる。教師の実演をまねるところからのスタートであったが、現在では、研究教科の算数科以外でも自分たちで考えを出し合い、つなぎ、高め合う姿が日常的に行われている。全校で集まる集会や発表会においても、全校の90%以上は感想や意見を述べるために挙手をするなど、学校生活全般で活発な姿が見られるようになった。



また、今年4月の県中学校新入生学習状況調査質問紙において、「小学校では主体的に学習していたか」に対する本校の卒業生の肯定的回答が100%であったことから、その成果の表れと言える。

(3) 新学習指導要領と2つの視点との関連

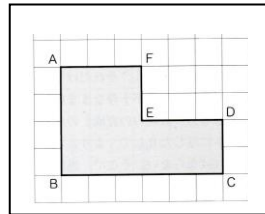
本学区における視点①は、児童一人ひとりが自分事として課題を把握し、学ぶことに興味・関心や見通しを持つための取組である。視点②は、自分や友達との対話を通して自己の考えを広げ深めるための実践である。いずれも、新学習指導要領に示される「主体的で対話的で深い学び」アクティブラーニングの視点と合致している。2つの視点に基づき実践してきたことは、新学習指導要領に示された視点を具現化していることと言える。

4 今後の課題

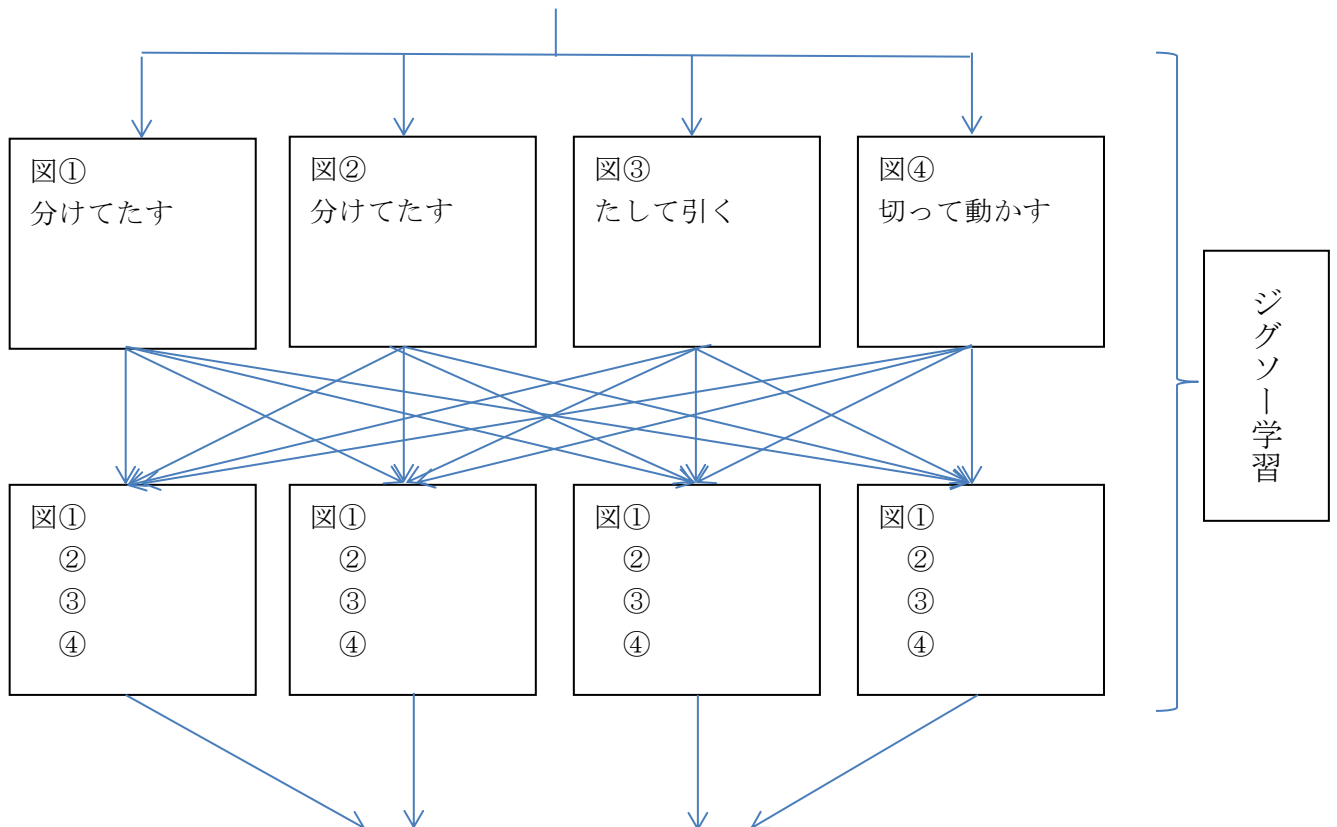
3年間の積み重ねで、児童は学習に対しての意識が変わり、授業を中心にして主体的、能動的な姿に変容したが、各種検査等の結果に数値として反映されているとは言い難い。これは、低学年から見られる個人差や、それに対する指導の甘さが考えられる。また、本校では家庭学習として、当日の授業を思い返して理解したことをまとめる授業作文→授業作文を根拠にした「のだから学習」を取り入れているが、個別に課題を与えるなど、児童の能力に合わせた家庭学習の在り方もさらに工夫する必要がある。更に、授業力向上のために中学校区での連携を強め、義務教育9年間の学びが充実するよう授業改善に努めていくことも継続して行う必要がある。

資料

学び合い構想図例【第4学年 面積】 ジグソー学習を取り入れて展開した例



- 式① $2 \times 3 + 2 \times 6 = 1$
- 式② $4 \times 3 + 2 \times 3 = 1$
- 式③ $4 \times 6 - 2 \times 3 = 1$
- 式④ $(2 + 4) \times 3 = 6 \times$



一般化
 でこぼこした形も長方形にすれば
 求めることができる。
 方法 ①分けてたす
 ②たして引く
 ③切って動かす

